

家庭菜園相談室

家庭菜園 Q & A

Q1

堆肥を使うメリットを教えてください。

A1

堆肥とは、植物の葉や樹皮、家畜の糞などが微生物の働きにより発酵・分解したものです。堆肥は、作物が育つ土の環境を整え、順調な生育を助ける重要な役割があります。土中の有機物は、微生物等により分解されますが、一部は分解の過程で高分子の有機物質として土中にとどまります。これを腐植と呼び、以下のような働きがあります。

○腐植の働きにより土が団粒化してフカフカになる

土に適度な隙間が生まれ、保水性と排水性がよくなり、作物の生育に適した環境を作ります。

○作物へ生育に必要な養分を供給する

堆肥に含まれる養分の供給と、腐植の効果で保肥力が増し、リン酸や微量元素の効きが向上します。

○病気や害虫から作物を守る

土壌の微生物が増殖することで、土中の病原菌や害虫（寄生性センチュウなど）の軽減が期待できます。

※十分な効果とまではならないので、病害虫が発生した時は適切な農薬の散布が必要です。

※堆肥の種類によっては、病害虫の発生を助長する場合もあるので注意します。

堆肥の施用による
病害虫への効果について

○果菜類→軽減効果が期待できることがある。

○葉菜類→病害虫は軽減できないが、増収効果が期待できる。

○根菜類・イモ類→直前の施用は、病害虫の多発を招きやすいので注意する。

Q2

堆肥の使い方を教えてください。

A2

1. 堆肥の施し方

作物を育てる2週間～1カ月ほど前に、堆肥を土にすき込みます。特に、新規や新規に近い土壌へ堆肥を施す場合は、30^{センチ}程度の深さで土壌全体へよくすき込みましょう。

2. 堆肥の施用量

畑へ施す量の目安としては1㎡あたり3^{キログラム}（2^{キログラム}）程度です。その際に、牛糞や鶏糞などの動物質堆肥と、腐葉土などの植物質堆肥を半々で使用すると土壌の改良が長期的に進みます。

3. 未熟な堆肥は使用しない

完熟していない未熟な堆肥は使用しないようにしましょう。家畜の糞の臭いがする未熟な堆肥は、再発酵・熟成させてから使用します。

○肥料効果が高い堆肥

・発酵鶏糞：鶏糞に植物性の副資材を加えたものです。肥料成分が多く即効性を持つため、肥料として利用します。窒素・リン酸・カリウムが豊富です。

○土作り効果が高い堆肥

・腐葉土：ナラ、クヌギ、桜などの広葉樹の落ち葉が長期間堆積された完熟の植物質堆肥です。土壌の改善効果と、腐葉土に含まれる多くのミネラルにより、作物がおいしく育ちます。

・バーク堆肥：木の樹皮に鶏糞などを加え発酵させたものです。砂質土壌での保水性や保肥力を改良する効果があります。肥料効果は少ないので、ポカシ肥料などと併用して使用します。

○肥料と土作り効果がバランスよく得られる堆肥

・牛糞堆肥：牛糞に植物性の副資材を加えたものです。肥料効果と土作り効果のバランスの良い堆肥です。肥料効果の高いポカシ肥料などと合わせて使用すると、野菜の生育を促進します。

※完熟した牛糞堆肥を使用しましょう。

おすすめの堆肥

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。